ISSN 0289-8144

なきごえ

1996

2

大阪市
天王寺動物園協会

なきごえ
2
1996

New Face

（撮影：高見 一利）

2 —— New Face マレーグマのつがい来園（高見一利）
3 —— 動物と私 （薩摩和男）
カバーウォッチング ビクトリアコアラ（大野尊信）
4 —— オオミズナギドリの保護飼育と放鳥
日本野鳥の会 鳥取県支部 副支部長（岸本 勉）
6 —— パタスザルの人工哺育について（松村幸治、鈴木克治）
8 —— グラフZOO （森本委利）
10 —— 獣医室から㊅ ウンピョウの虫歯（高見一利）
11 —— ZOO DIARY

カバーウォッチング

ビクトリアコアラ

フクロネズミ目 コアラ科

Phascolarctos cinereus victor

昨年の10月7日に天王寺動物園開園80周年を記念してメルボルン動物園から贈られました。愛称を募集し"ボルン"と命名されました。

（撮影：大野 尊信）

動物と私

薩摩和男さん
（美々卯社長）

うーむぅー。「動物と私」ねぇー。

調子に乗って引きうけてはみたものの、ワープロの前で行き詰まっている私です。

私達の店では、年間150万人前の「うどんすき」（美々卯の登録商標です。念のため。）をお客様にお出ししています。

「活車海老」をつけてお出ししていますので、365日で割ると、一日に4,000匹あまりの海老の命を、熱い鍋の中で奪っている事になります。

他にも鯛や、はまぐりや、鶏・・、言い出すとキリがなくなります。

とても動物愛護の精神にあふれた、この「なきごえ」に自分から投稿する勇気はありません。「えび供養」や「鯛供養」でもやらなあかんくらいです。

別にエビや鶏が、私に文句を言ったわけではありません。ただ、あまりえらそうな事は言わないようにしようと思います。

人間は勝手なもので、うちの家族なども動物園を訪ねて「きゃあー！あの小鳥、かわいいー！」と騒いでおきながら、帰りに寄ったレストランで「この鴨おいしいー！」と言ったりしています。

飼い犬は布団の中に入れて、一緒に寝るくらいかわいがるくせに、野良猫に石を投げたくなったりします。

当たり前かもしれない事ですけれども、どうも矛盾している事のような気もします。もし「米粒」に意識があったなら、釜の中でぐらぐら炊かれて、さぞ熱い事だろうと思ってしまう私はヘンでしょうか。

考えてみると、人は「他の生命を奪う」という行為を通してしか、自らの生命を保つことが出来ないようです。いや広く見るとすべての動物は、何らかの他の生命を土台にしてしか、生きていくことは出来ないもののようです。

「動物愛護の集会に出かけた帰りに、ステーキに舌鼓を打つ」というのは、考えてみるとおかしな話ですが、だからといってそれを偽善だと決めたり、菜食主義に走るというのも不自然な気がします。

「全ての生命は、土から生まれて土に還る」という大きな宇宙の流れは、厳然としてあるようです。「生かされている自分」という事実の前に、謙虚さと感謝の気持を忘れる事さえなければ、「活きの良い魚に舌鼓を打ちながら環境問題を論ずる」のも「ええんとちゃうのん？」というのが、今の私の意見なんです。皆さんどう思われますか？

（さつま かずお）

マレーグマのつがい来園 ネコ目 クマ科

昨年12月15日にシンガポール動物園から一つがいのマレーグマが来園しました。クマの仲間ではもっとも小型の種で、しぐさにも愛きょうがあります。

オオミズナギドリの保護飼育と放鳥

岸本 勉

日本野鳥の会
鳥取県支部 副支部長

はじめに

教師として、物理・化学・生物・地学の全分野で、長年児童生徒の科学研究指導を行ってきましたが、今回、"野鳥の保護"という視点でオオミズナギドリを取りあげました。縁あって2回の保護飼育を体験しましたので、その概略を紹介してみたいと思います。

一回目の保護飼育

昭和61年、鳥取県中部の三朝中学校理科教師として、生徒達の科学研究指導にあたっていました。

この年の研究テーマは、当初「三朝高原付近の地質に関する研究ー第7報ー三朝町に分布する滝の地形・地質の調査および小鹿川流域のおう穴の分布調査」でしたが、中途から三朝温泉観光協会の研究依頼を受けて、「三徳川におけるホタルの生態学的研究」も手がけることにしました。

この年は、中国・四国地区中学校理科研究大会高知大会があり、私自身も鳥取県代表の一人として、『探求の過程を重視した理科教育のあり方』を発表した年であり、7名の科学部員と共に、必死になって研究を進め、11月からオオミズナギドリの保護飼育、12月からは鳥取県鳥オシドリの保護飼育という4つのテーマを手がけることになった、忘れられない年であります。

11月12日の朝、三朝町教育委員会から、「先生、珍らしい鳥が保護されているのですが…。」という電話をいただきました。前日午後7時30分頃、夜間照明の点灯した陸上競技場で駅伝練習中に、草履のようなものを見つけ、近づいてみると珍らしい鳥で、2～3回飛ばせてみたが飛べないので、町役場に保護したとのことでした。

愛称ナギちゃんは三朝中学校の人気もの

預かってみると、見たことのない鳥で、図書館の図鑑で調べてオオミズナギドリであることを知りました。保護飼育の方法がわからず、部員達と手さぐりの状況から出発し、野鳥に詳しい細谷賢明先生（現在日本野鳥の会鳥取県支部長）にも問い合せたりしました。近くの魚屋からハツメ（メバルの仲間）を買い、切り身にして与えましたが、この日に水を飲んだり、魚を食べた形跡はありませんでした。

翌日、職員朝会で先生方に紹介し、科学部員で世話をすることに決め、ウマヅラハギの切り身を与えましたが、この日も飲んだり食べた形跡はありませんでした。午後、横170cm、縦63cm、高さ81cmの金網製飼育箱に移しました。

14日午前、先生方に手伝ってもらってウマヅラハギを7切れ与えましたが、3切れ飲み込み、4切れは吐き出してしまいました。午後各新聞社から取材に見えましたが、衰弱がひどいので短時間で切り上げていただきました。かつて保護した経験者から、「小さい魚を頭の方から丸ごと押し込んでやらないと自分では食べない。」ことを聞きました。国の天然記念物（地域指定）なので、この日、農林振興局に保護飼育を届け出ました。

保護して5日目、近くの山根動物病院に診察に行き、「今年に入って、この病院に持ち込まれたのが3例目である」ことを知りました。1例目は10日間生きて今朝死亡、2例目は持ち込まれてその夜に死亡ということでした。「続けて飼ってみられますか。」との問いに、「最後まで面倒をみてやります。」と答えました。「毎日体重を計り、胸をさわって肉のつきぐあいを観察し、薬は抗生物質を含んだビタミン栄養剤だから魚にまぶして与えて下さい。」という指導を頂きました。

この日の体重は500gで、薬をまぶしたワカサギ5匹を、科学部員の手で、口から押し込んで与えました。また、生徒総会で現状報告をしました。

三朝中学校での体重測定
ー行儀よくはかりにのってー

16日は日曜で、11時頃、部員と共に登校して、ワカサギ6匹に薬をまぶして与えました。すごく元気になっていて、飼育箱の隅から隅まで歩いてみせました。午後、校舎三階廊下と体育館で、30分間歩行訓練をやり、ギャーッというウミネコに似た鳴き声を三度ばかり聞きました。

18、19の両日は、朝昼夕の3回に、ワカサギ10匹前後30gずつ与え、歩行訓練中でも軟かい糞を出すようになりました。

20日朝、体育館の二階から放し、下から毛布で受ける方法で、20分間の飛行訓練をやり、滑らかに飛行できることを確かめました。この日の午後2時過ぎ、日本海の40mの断崖のある泊海岸から放鳥し、南国に向けて飛び去りました。両翼を一杯に広げて、ゆったりと滑らかに飛び、『ありがとう！』とくり返し言っているように思えました。

帰校して校長に報告し、全校緊急放送で、放鳥成功の様子を説明しました。

9日間の世話でしたが、実に沢山のことを教えてくれました。

二回目の保護飼育

平成6年11月1日、三朝町の方が、道路にうずくまって飛べないでいるオオミズナギドリを捕獲して、町役場に届けられ、保護依頼を受けて学校に連れ帰りました。

私は、平成元年4月、三朝町立東小学校長として赴任しており、9年ぶり2回目のオオミズナギドリ保護飼育で自信もあり、定年退職前の最後の年にあたり、全校児童で保護飼育しながら観察を続け、児童の科学研究内容にも取り入れました。

この小学校は、平成2年、「緑の少年団」に加入し、また、平成5年から9年まで鳥取県愛鳥モデル校の指定を受けており、さらに平成6～7年度は、文部省による道徳教育研究推進校の指定を受けておりました。

教科の生活科・理科教育はもとより、愛鳥教育、道徳教育、環境教育の推進という広い視野に立ち、全校、PTA、地域社会など総ぐるみの保護飼育に発展させ、野生鳥獣保護への関心を高めたいと考えました。

縦横45cm、高さ65cmの鳥かごに、動きやすいように、底は板を並べ、バスタオルを敷いて保護飼育を始めました。初日の測定では、体長45cm、体重420gでした。

ワカサギが入手できないので、イワシの切り身を与え、水は人工海水と水道水の2種類を与えましたが、元気がなく、夜冷えるといけないので、タオルケットでかごをおおってやりました。職員朝会で紹介し、全児童に保護飼育をかかわらせることにしました。日曜や祝日は、自宅に連れ帰り、暖房のある部屋で静養させるようにしました。

鳥取県支部長細谷賢明氏に連絡したところ、隣りの倉吉市でも過日保護され、鳥取大学農学部獣医学科の林隆敏先生のもとにもいることを知りました。

4日目、山根動物病院に出かけ、ビタミン剤を注射をしてもらい、一泊二日の入院をお願いし、昼食時、ランチルームで全校児童に状況を説明しました。その後、日ごとに元気になり、8日目、はじめて歩行訓練を行い、新聞記者の取材に応じました。三度の食事は、つとめて児童達にまかせ、教師はそばで見守るようにしました。

9日には、本校で地区道徳教育研究発表会が開かれ、6年生道徳公開学習（野生動物を大切にする心を持とう。）の終末段階教師説話で、オオミズナギドリ保護の話を取り上げました。

10日には、ワカサギを購入して1回に5匹ずつ与えました。手を出すと、くちばしでかむようになり、子供たちはビクビクしながら近寄っていました。12日目は、1回にワカサギ7匹30gを食べ、脱糞の回数もふえ、体重は465gになりました。

東小学校児童が3人がかりで、
餌のワカサギを与える風景

14日、廊下で歩行訓練、4年児童と体育館で飛行訓練、15日はワカサギ1回13匹50gを与え、5年児童と飛行訓練、16日は3年児童と飛行訓練、昼は職員玄関前広場で毛布を敷いてワカサギ60gを与え、18日は児童集会でお別れ飛行訓練をやりました。体重は今までの最高580gとなり、10時過ぎ、前回と同じ泊海岸で、児童代表を含む7名の見守る中、南国にむけて旅立ちました。三朝町防災無線は前後二回にわたり全家庭に放送しました。

東小学校児童代表による泊海岸での
放鳥の瞬間

おわりに

この鳥の生態をもっと詳しく知りたくて、多くの方々に、電話や手紙で問い合せを致しました。

米子総合動物病院の柴原イネ先生、大阪市天王寺動植物公園の竹田正人先生、東京農工大の山根義久先生、北海道大学の小城春雄先生、山階鳥類研究所の佐藤文男先生、新潟県庁の宮下敦先生、京都府庁の下野龍志先生、島根県庁の福代美保先生、隠岐島五箇中学校の野津大先生、鳥取大学の林隆敏先生をはじめ多くの皆様にご指導を受けました。地域町民の関心もすごく高まりました。

おかげさまで、三度目の保護飼育の機会に恵まれれば、もっと自然に近い状況で世話ができそうな自信がわいてきました。

（きしもと つとむ）

パタスザルの人工哺育について

〔はじめに〕

パタスザルは中央アフリカのサバンナに生息するオナガザル科の仲間です。すらりと伸びた四肢と長い尻尾、赤褐色の毛が特徴です。この長い四肢は草原を走るのに適しており、赤褐色の毛は草の間に隠れるのに適しています。

当園では、このパタスザルを3頭（オス1頭、メス2頭）飼育展示しています。このグループに昨年5月20日、メスの赤ちゃんが誕生しました。動物園では、愛らしい親子の姿を来園者に見てもらうため、また、生まれた赤ちゃんが親や仲間と生活する中で様々な事を学び、将来的にも繁殖が続くよう自然哺育を基本としていますが、今回の場合、残念ながら人工哺育をせざるを得ませんでした。ここではその経過について紹介します。

〔両親〕

今回の赤ちゃんの父親は、1988年3月に上野動物園で生まれ、89年10月に当園に入園しました。母親は1頭が91年4月にとべ動物園で生まれ、翌年7月に入園しました。ちなみに、もう1頭のメスは91年9月に日本モンキーセンターで生まれ、翌年7月に入園したものです。

実は、赤ちゃんの母親は一昨年5月にもオスを出産していました。母親は赤ちゃんをしっかりと抱き、授乳も順調にしていました。しかし、この時の赤ちゃんは生後6日目にして突然父親に襲われ死亡しました。その原因はわかりませんでしたが、この経験を生かし、今回は事前に父親を隔離して、出産に備えました。

しかし、こちらの思うようにはなかなかうまく事は進みません。母親は、前回の経験の影響が残っていたのか、はたまた父親を隔離したためか、かえって神経質になり、出産後赤ちゃんに対する抱擁行動や授乳行動が見られなかったためやむなく、人工哺育をすることにしました。

〔人工哺育開始〕

赤ちゃんを取り上げてみると大変体温が下がっていました。また、胎盤とへその緒がついたままでした。早速、動物病院に運び込んで、まず、胎盤のついたへその緒を切って、お湯につけて体を温めました。体が温まったのを確認して、ドライヤーとバスタオルでよく乾かし、約30℃に調整した人の未熟児用保育器にタオルと一緒に入れました。サル類の赤ちゃんは、生まれた直後から母親にしがみつく習性があり、タオルは母親がわりです。この時の体重は620g、頭胴長は約22cm、尾長は約28cmでした。

タオルをしっかり握って（18日齢）

赤ちゃんを人工保育器に入れて、ホッとするまもなく、ミルクを準備しました。ミルクはヒト用の乳糖の入っていないミルク（和光堂：ボンラクトi）を使用しました。以前のフクロテナガザルの人工哺育で下痢をした時に、このミルクを使用し下痢が止まったので、今回は最初から使うことにしました。乳首と哺乳ビンはエスビラック社のイヌネコ用を使用しました。

〔成長経過〕

「パル」と名付けたこの赤ちゃんの成長経過をグラフにまとめてみました。

まずはグラフの折れ線で示す体重の変化をご覧ください。1週齢まで体重が減少しています。これは、パルが乳首に慣れなかったせいか、生後1週間はなかなか自力でミルクを飲まなかったためです。体重を増やすには哺乳量を増やす必要があります。そのため、出生当日4回の哺乳回数を翌1日齢には5回に、2日齢には6回に増やしました。パルは次第に乳首に慣れ、1日当たりの哺乳量も出生当日16mlだったのが、翌1日齢には31ml、2日齢には67mlと増加しました。

哺乳量の増加とともに、減り続けた体重も5日齢から増加し、11日齢には出生当日の体重にもどりました。18日齢では、頭胴長にほとんど変化はないものの、体重は675g、尾長は31cmに増えていました。

哺乳回数は14日齢以降段階的に減らし、これとは反対に1回当たりの哺乳量を増やすことで、1日当たりの哺乳量を増やしました。その後、5週齢まで1日当たりの哺乳量を増やしていきました。ちなみに最高哺乳量は34日齢の256mlでした。哺乳量の変化は黒い棒グラフを参考にしてください。

体重の増加とともに、パルの動きが活発になってきたので、30日齢から人工保育器のふたを取り除き上部に保育箱を組み立てました。

パルは、出生当日すでに上下の前歯が2本ずつはえつつありました。この分では、離乳も早いのではと考え、39日齢にリンゴジュースとリンゴ、サル用ペレットを与えてみました。しかし、40日齢まったく食べなかったため、とりあえずジュースを半強制的に飲ませました。離乳の時期が早かったのかなと思っていましたが、41日齢からリンゴとペレットを食べはじめたため、ジュースを中止し、以降、ブドウなど果物の種類と量を徐々に増やしました。これとは反対に哺乳量は減らしました。給餌量の変化は白い棒グラフを参考にしてください。

天気のいい日は日光浴（79日齢）

71日齢からは、さらに活発になったパルの動きに対応するため、より大きな手製の保育箱に移しました。79日齢では、体重が1140g、頭胴長が約30cm、尾長が約38cmに増えていました。また、このころには黒褐色だった幼獣の毛が、ほとんど成獣の毛色に変化していました。

〔病気〕

その後も順調に生育していましたが、114日齢に突然下痢を起こしました。下痢には様々な原因が考えられましたが、過給餌をその原因の1つと考え、治療のため給餌量を減らしました。同時に下痢止めの薬もミルクに混ぜて飲ませました。下痢は5日程で回復しましたが、給餌量を増やすのには時間をかけたため、以後の短い期間で体重の増加率が減少しました。病気にかかったのはこの1回だけで、給餌量を徐々に増やしていくにつれ体重も増加し、165日齢には体重1750g、頭胴長は約36cm、尾長は約44cmに成長しました。

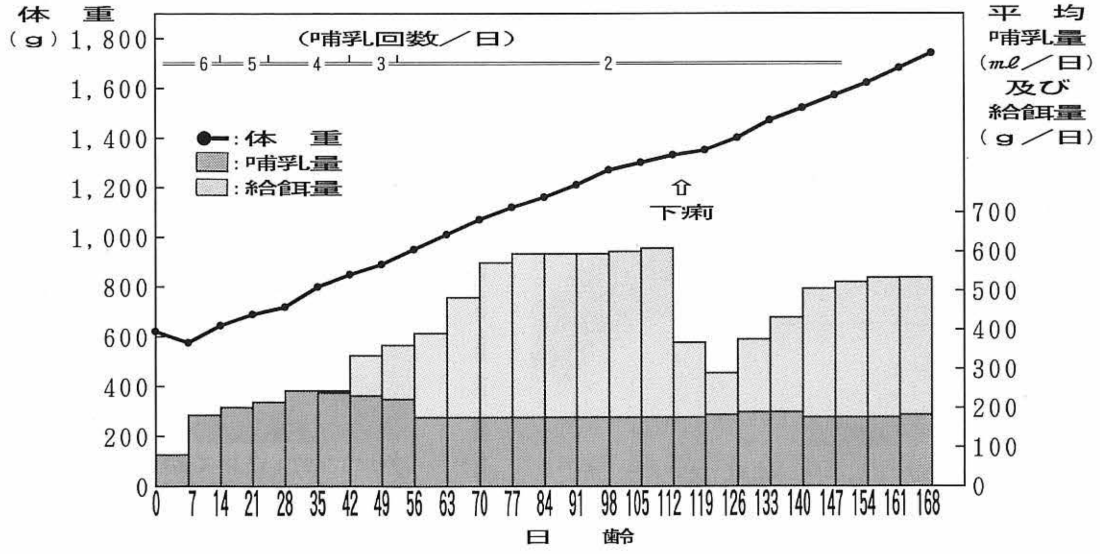
おいしそうにミルクを飲む（165日齢）

〔おわりに〕

当園では以前、ニホンザルやフクロテナガザルの人工哺育を経験していました。これらの経験があったおかげで、今回のパタスザルの人工哺育はそれほど慌てることなく行うことができました。しかし、パタスザルの人工哺育の最中にドリルも人工哺育することになり、大変忙しい思いもしました。これらの貴重な経験を今後の飼育展示に生かしていきたいと思っています。また、なぜ人工哺育をしなければならなかったのか、その原因についても検討を加え、動物本来の姿である自然保育を目指して努力していきたいと思います。

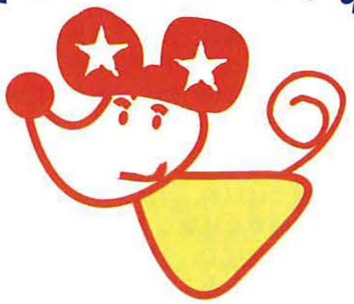
（飼育課：松村幸治・鈴木克治）

体重・哺乳量・哺乳回数・給餌量の変化



グラフZOO

天王寺動物園の



ネズミの仲間

今年は子年。それにちなみ今回は
当園にいるネズミ科の動物11種
のうち7種を特集してみました。

（撮影：森本委利）

カヤネズミ

ネズミの中では一番小さい部類のネズミ。
体長6～7センチ。体重7～8グラム。カヤなどの
はえる草原で、壷状の巣を作ります。

ミケリス

美しい人気者のリス。マレー半島、スマトラ、ボ
ルネオなどの森林に住んでいます。

マーラ

ウサギに似ているネズミの仲間。
南米の草原や荒れ地に住みます。

アカネズミ

日本全土の森に広く住み、落ち葉の下や巣穴に
ドングリを貯食します。

ドブネズミ

都会に住みついたネズミの仲間。水泳がうまく、
よくドブを通り道に利用します。

アフリカタテガミヤマアラシ

ヤマアラシもネズミの仲間。
怒らせると針のとげを逆立てます。

ヌートリア

南米がふるさとです。明治末期に毛皮をとるために
日本に移入されたものが逃げ、野生化しています。

獣医室から ㊻

ウンピョウの虫歯

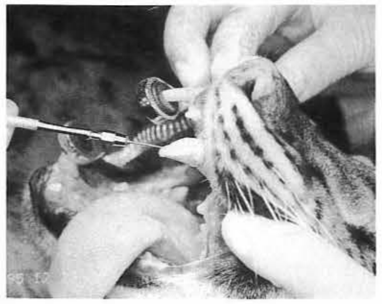
天王寺動物園のネコ科動物のコーナーに、ウンピョウが2頭飼育されています。ネコ科野生動物としては中型で、体重は20kg前後になります。からだの表面には雲のようであると表現される美しい大きな模様があります。「雲豹」という名前もここから来ているようです。2頭そろって大阪市の友好都市である中国の上海市から1993年5月に第9次動物交換でやって来たものです。

ネコ科動物とはトラやライオンに代表される肉食動物です。野生では狩りして獲物を捕え生活しています。そのしなやかな身体と素晴らしい腕力、脚力を使って獲物を捕え、鋭い牙でとどめを刺すパターンが多く観察されています。牙（犬歯）はネコ科のほとんどの動物にとって強力な、なくてはならない武器です。ウンピョウはネコ科動物の中では身体の大きさと比較してもっとも大きな牙を持っています。そんな自慢の牙ですが、天王寺動物園の2頭は私達にその牙をはっきり見せてくれることはほとんどありませんでした。

この2頭の健康診断をすることになり、麻酔をかけていろいろな検査を行いました。この時口を開いて中を覗きこんでみるとなんと自慢の犬歯が虫歯になってボロボロの状態ではありませんか。しかも困ったことに2頭とも。その場ですぐに治療することもできず、とりあえず虫歯の程度を調べるためにレントゲンを撮ってその日は終わりました。どのように治療をすればよいかとあれこれ相談が行われましたが、やはり歯の治療の専門家は歯医者さんです。ヒトの歯医者さんに登場してもらうことになりました。

さて暮れも押し迫ったクリスマスイブの前日、2頭続けて治療を行うことになりました。お世話になる歯医者さんに専門の器械や道具、薬などを運び込んでもらい、準備ができたところでまず1頭に麻酔をかけて動物病院に連れて来ました。はじめにレントゲンを撮ってから診察台に乗せ、口を大きく開くと虫歯は更に進んでいるようでした。上の2本の犬歯が根元から無くなって大きく穴が開いていますし、下の2本にも穴が開いています。神経も死んでしまっているようで、ヒトだったら転がりまわって痛がっているような状態だと言うことでした。1本ずつ順番に虫歯の部分を、あのキーンと音のする機械で削り取ります。次に奥まで十分に洗浄、消毒します。きれいになったところで奥の部分に薬をつめて、穴をセメントで埋めます。固まると非常に強力な、一見パテの様に見えるもので表面部分を覆い、その表面を滑らかに削ると終了です。

ヒトの場合はこれらの手順を何度かに分けて行うようです。洗浄、消毒を十分にして少しでも虫歯の要素が残らないよう処置し、最後にその人に合わせて型をとった金属で覆ってしまうそうです。しかしウンピョウの場合は人のようにはいきません。治療のたびに危険を伴う麻酔をかけなければなりませんし、機材や人手についても何度も簡単には準備できません。それに笑うと？口元から銀色の歯を覗かせるウンピョウなんてさまになりません。幸い治療後は、固まると周囲の歯の色と変わらないような材料を外側に使って頂いたため、牙がないこと（もっともこれが一番の問題点ですが）を除けば口まわりに違和感はありません。午後一番で始めた治療でしたが、2頭とも終わってみると夕方になっていました。



ヒトの世界では虫歯と言っても非常に多くの専門医がいることや進んだ治療技術が確立していることなどのおかげでそれほどの病気とは考えられていません。ましてやヒトは毎日予防のためのブラシ掛け（歯磨き）をしています。また他の動物種よりも痛みに対して敏感なようで、少しでも痛みがあると大騒ぎをしてすぐに治療を始めます。しかしヒト以外の動物の世界では（特に野生動物の世界では）致命傷にもなりかねない重大な問題です。獲物を捕えて倒すことができない、食物を噛み切って食べられない、ということになりますし、もっとひどい場合には虫歯の病原菌が歯の奥から神経に沿って深く入り込んで体中にまわってしまうことにもなります。もっともヒトほど簡単に虫歯になるとも考えられませんが。

今回のウンピョウに限らず歯の治療を必要とする動物はこれからも出てくることでしょう。そのうちひょっとしたらライオンの金歯やクマの入れ歯などといったものが登場するかもしれません。動物と虫歯…。新たな飼育課題として考えねばいけないと思っています。

（飼育課：高見一利）

今月もおもしろ情報満載

ZOO DIARY

12／1. ドバトを1羽保護しました。

12／3. ゴイサギを1羽保護しました。

ヒツジが食滞を起こしたので、治療を始めました。

12月4日 フンボルトペンギンが1羽ふ化しました。これは、10月29日に2個の産卵を確認していたもののｌつで、今季最初のヒナです。この他にも3カ所の巣で合計6個の卵があります。

チンパンジーの母仔（“プテリ”、“レックス”）の定期健康診断を行いました。

12／5. アカネズミ3ペアが広島市安佐動物公園から贈られてきました。検疫終了後、夜行性動物舎で展示します。

12月6日 11月に岡山市の池田動物園から贈られてきたヌートリアの検疫が終わったので、展示を始めました。

12／8. 今季3羽目のフンボルトペンギンがふ化しました。12月4日とは別の巣です。

12／11. 11月24日に入園した6種類のキジの仲間のうち、3種類（フサホロホロチョウ、ギンケイ、ヤマドリ）の検疫が終わったので、キジ舎で展示を始めました。

オランウータンのメス“サツキ”の定期健康診断を行いました。

今季4羽目のフンボルトペンギンがふ化しました。12月8日と同じ巣です。

ゴイサギとキジバトを各1羽保護しました。

12／12. 11月に保護したドバトと12月に保護したキジバトが元気を回復したので、自然復帰させました。

12月14日 ㈳大阪市天王寺動物園協会の平成7年度理事会が、園内のレクチャールームで開催され、西尾会長の会長辞任の挨拶の後、各議案について審議があり、原案どおり満場一致で承認されました。

12／15. マレーグマ1ペアがシンガポール動物園から贈られてきました。

12／16. 猛禽舎で展示していたノスリが足を怪我したので、治療のため動物病院に入院しました。

12月18日 オランウータンのオス“ブル”の定期健康診断を行いました。同時に、繁殖能力を調べるため精液の検査も行いました。

タンチョウ4羽をドイツのフォーゲルパークへ贈りました。

12／19. 12月15日にシンガポール動物園から贈られてきたマレーグマ1ペアの一般公開を始めました。

12／20. ツグミを1羽保護しました。

12／21. ニホンコウノトリ1羽を東京都多摩動物公園に贈りました。

12月23日 ヒョウ舎で展示しているウンピョウ2頭が虫歯を持っていたので、治療を行いました。

12／25. チンパンジーのオス“リッキー”の定期健康診断を行いました。

12／26. ブタオザルが1頭生まれました。

12／27. “鳥の楽園”で展示していたタンチョウ1羽をツル舎に戻しました。

12／30. フラミンゴの羽が伸びたので、切羽しました。これは、強風にあおられてフラミンゴが飛んで行くのを防ぐためです。

■お知らせ■

●動物園のおじさんのお話
「バードウォッチング」
日時：2月18日㈰ 午後1時から
集合：バードケージ（鳥の楽園）前
「ビンゴでガイド」
日時：3月17日㈰ 午後1時から
集合：サル・ヒヒ舎前

愛ある暮し、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS

生態・飼育・図鑑が一つの本の中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修
Ｂ５変型判・オールカラー
定価680円

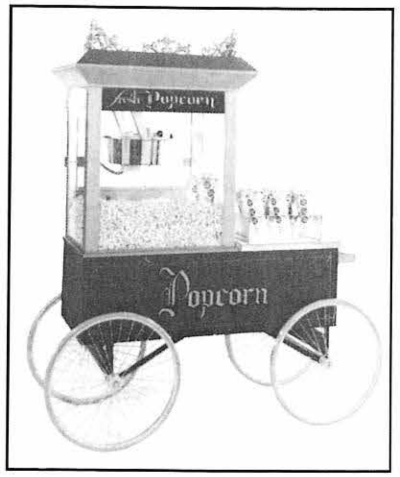
動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？　動物園での世話の仕方は？　仲間は？　など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

くらしとかいかたシリーズ<既刊本>
Ｂ５変型判・オールカラー・各定価680円

むし くらしとかいかた
野山でみかける身近な昆虫たち２５０種を紹介。

ちいさないきもの くらしとかいかた
昆虫以外の小さな生き物を３２０種紹介。

お求めは、お近くの書店で。　ひかりのくに株式会社　本社／〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



マスダのポップコーン

マスダ　いつでも どこでも ポン ポン ポン

〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

㈱増田食品　〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06)865−0165

新・きれい色
FUJICOLOR
SUPER G ACE 400

新・きれい色

カメラの大林
桜橋本店 ☎341—8091
阪急三番街店 ☎372—5031

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

動物文學

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理するとともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家を紹介した本邦動物文学の母胎です。
〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉
会費／年1,500円（切手72円・呈既刊号目次）

動物文学会
〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2　電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作
貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分（10本常備）

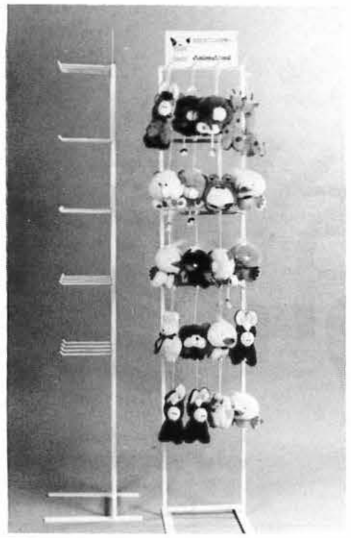
- 対　　象／保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間／10日間
- 貸 出 料／無料（但し郵送料510円は必要）
- 申 込 先／当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード（限定販売）
好評発売中 ￥800（50度用）

天王寺動物園の本
入園の記念・手引に……

オールカラー
500円
園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会　〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

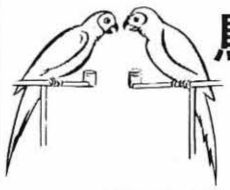


動物ぬいぐるみは
子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

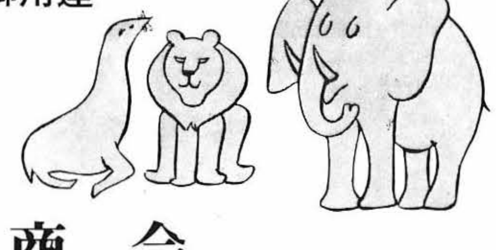
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL：(06)704−8580
FAX：(06)704−8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

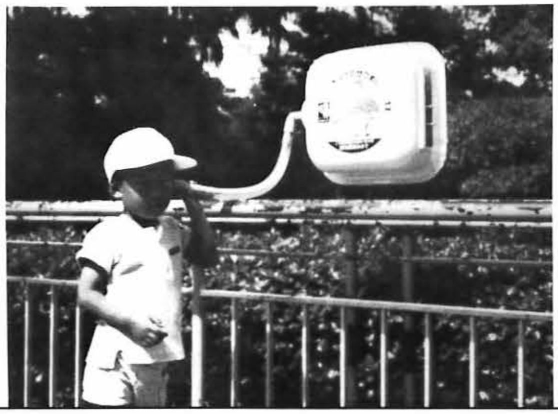
- 医学実験用動物
- 宣伝用、テレビ用、貸動物
- 原色世界雉類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 **吉　川　商　会**

本　社　神戸市中央区中山手通3丁目11番4号　電話(078)221-8195(代)
飼育場　兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい〝動物のお話〟は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回　20円

動物園内での
お食事、
ご休憩は

動物園内…………
中央売店
TEL 06-771-0973

お食事・飲もの・おみやげ　動物園内
南園売店 TEL06-771-7110

LOTTE

サクッとスリムなプレッツェルを、
こんがりと焼き上げたあとに
チョコをたっぷりと入れました。
「トッポ」のおいしさの人気は、
ここがポイントです。

雪印

雪印
つぶより
フルーツ
ヨーグルト

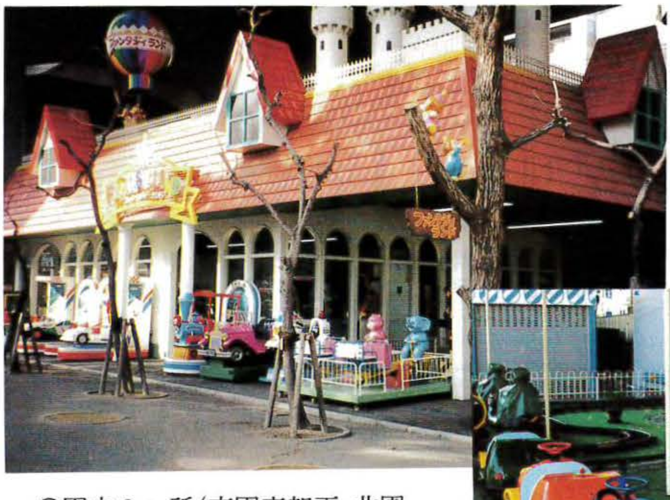
●ライチミックス　●ストロベリー　●アップル　●ピーチ　●フルーツミックス

おいしさは、産地のよさです。

台湾のライチ、フィリピンのナタ・デ・ココとパイナップル――●ライチミックス
国産の女峰、オレゴンのトーテム、中南米のチャンドラー、季節の旬を追って――●ストロベリー
日本の富士、中国・韓国の国光。それぞれおいしい季節の――●アップル
桃といえば中国です。そして韓国。旬に一括収穫した白桃で――●ピーチ
アプリコット、メロン、アップル、パイナップル、ミカン。果物狂の――●フルーツミックス

お待たせ
新発売

希望小売価格・税抜 各100円



一日
愉快に
たのしめる

◎園内３ヶ所（南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下）に各種〝のりもの〟があります。

久竹娯楽株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ　1996年2月10日発行（毎月10日発行）第32巻　第2号　（通巻366号）

編　集／大阪市天王寺動植物公園事務所
発行人／大阪市天王寺動物園協会　伊東重朗
印刷所／株式会社 松村善進堂　定価150円（送料共）１年継続（12部）1,650円（送料共）

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6―74
電話 大阪 (06) 7 7 1―0 2 0 1
振替口座 0 0 9 3 0 － 2 － 3 7 8 2 3

編集委員（樽本　勲／馬詰好文／増野悦敏／中川哲男／吉本昌俊／長谷川敏昭／落合正彦／宮下　実／長瀬健二郎／榊原安昭／森本委利／高橋雅之／中上正幸／堀内智生／小林崇宏／竹田正人／大野尊信／野口秀高／早川　篤／土谷正道／村上勇一／仁田原洋）